



～地域とともにある学校づくり～

品川コミュニティ・スクール



品川コミュニティ・スクールとは、地域の方々に学校運営に参画していただく

「校区教育協働委員会」と実際に教育活動を支援する「学校支援地域本部」の

二つを設置している区立学校を指します。

学校と地域が連携・協働して子どもたちを育てていく仕組みづくりを進めていきます。



品川区教育委員会

品川教育
- For The Next Generation -
ルネサンス

品川コミュニティ・スクールの概要

目的

保護者、地域住民、学識経験者等が学校運営に参画することで、学校と地域住民が一体となって、継続性を保ちながら、教育活動の改善や児童・生徒の健全育成に取り組みます。

また、地域全体で学校教育を支援することで、学校の教育活動の充実を目指すとともに、地域の人材の有効活用や地域の教育力の活性化を図ります。

特徴

学校運営に参画する「校区教育協働委員会」と実際に学校支援を行う「学校支援地域本部」の二つの組織を同時に設置します。また、それぞれの組織の運営に関わり、学校と地域をつなぐ、学校地域コーディネーターを各学校に配置します。

効果

1 組織的・継続的な体制の構築 = 持続性

2 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり

3 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

魅力

子どもにとっての魅力

- 子どもたちの学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

教職員にとっての魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

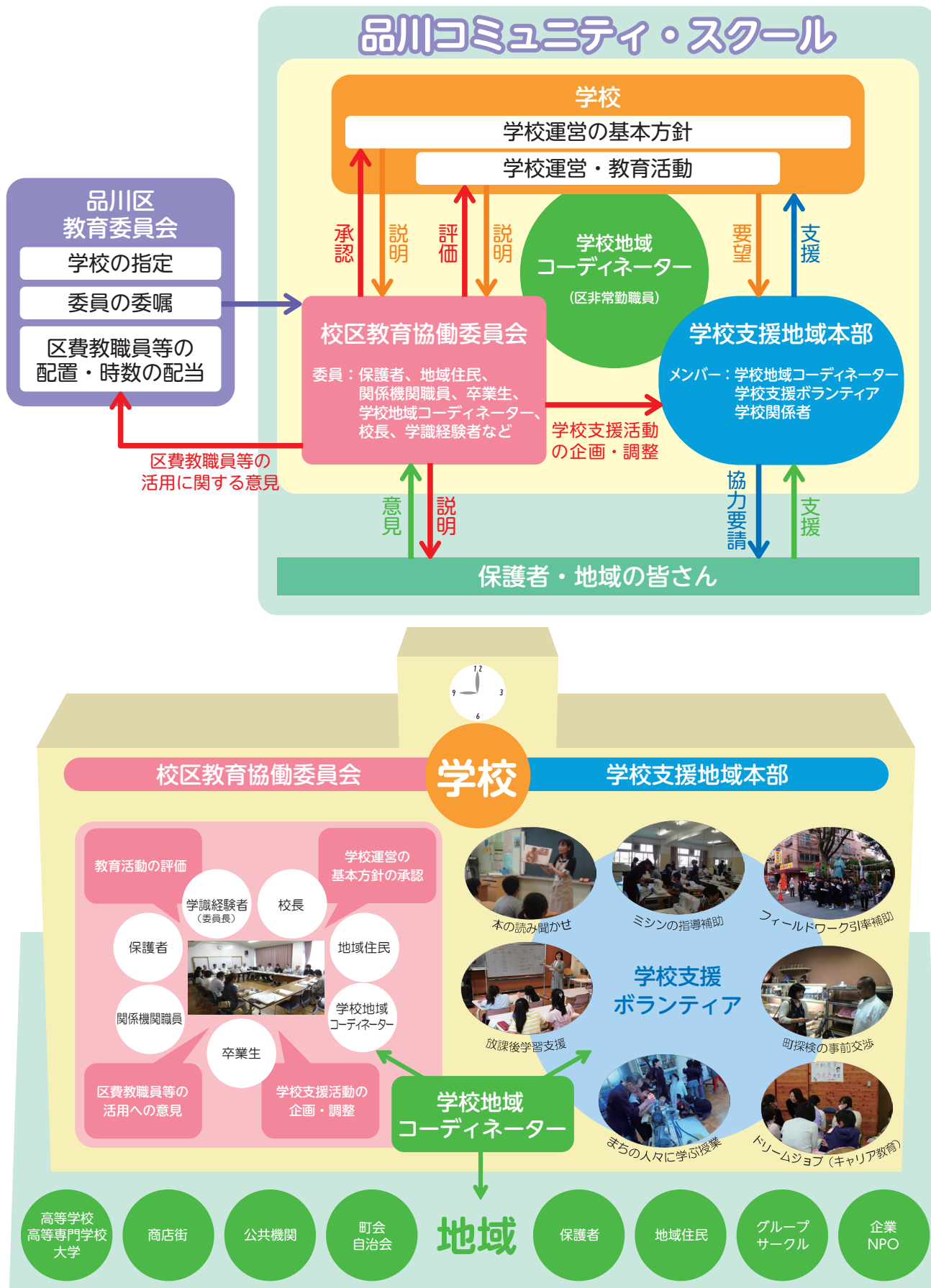
保護者にとっての魅力

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域の人々にとっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや、やりがいにつながります。
- 学校が社会につながり、地域社会の拠点となります。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の防犯・防災体制等が構築できます。

品川コミュニティ・スクールの組織図



校区教育協働委員会の概要

保護者、地域の方々に学校運営に参画していただきます

学校と地域の方々（保護者・地域住民等）が学校や地域の課題を共有し、共通の目標・ビジョンをもって一体となって地域の子どもたちを育てていくことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにもつながります。

4つの役割

- 1 学校運営の基本方針を承認する
- 2 教育活動の評価をする
- 3 区費教職員等の活用に関する意見を述べることができる
- 4 学校支援活動の企画・調整をする

メンバー

学 校 管 理 職：学校運営の責任者

保 護 者：児童・生徒の生活についてよく知っている。

地 域 住 民：子どもたちのために、地域でできることを知っている。

学 識 経 験 者：学校の教育活動について専門的な知識をもっている。

関 係 機 関 職 員：それぞれの機関の専門的な情報をもっている。

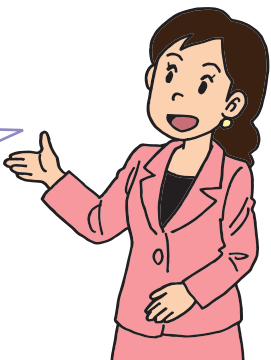
卒 業 生：学校の伝統やよいところを知っている。

学校地域コーディネーター：学校支援地域本部の役割をよく知っている。



これまでの校区外部評価委員会とはどう違うのですか？

校区外部評価委員会では、教育活動の評価を中心に行ってきましたが、校区教育協働委員会では、評価活動に加えて、学校運営の基本方針の作成などにも協力していただきます。



校区教育協働委員会の機能

3つの機能

① 熟 議

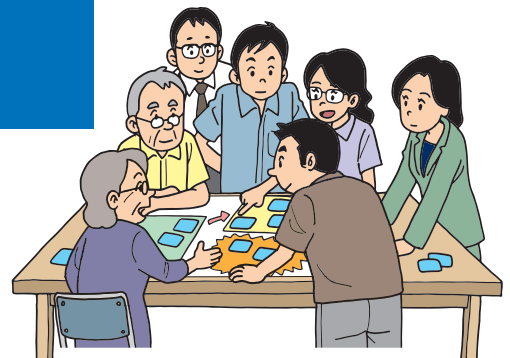
関係者がみな当事者意識をもち、子どもたちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議（熟慮と議論）」を重ねることが大切です。

熟議の実施により、より多くの方の意見を取り上げることができます。

「**熟議**」とは、よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、「協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を「話し合い」を重ねながら生み出そうというものです。

具体的には、下記のようなポイントを満たしたプロセスを指します。

1. 多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
2. 課題について学習し、**熟慮・議論**することにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
5. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる。



② 協 働

「熟議」の実施を通して学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「**参画**」し、共通の目標に向けて「協働」して活動していくことが大切です。

③ マネジメント

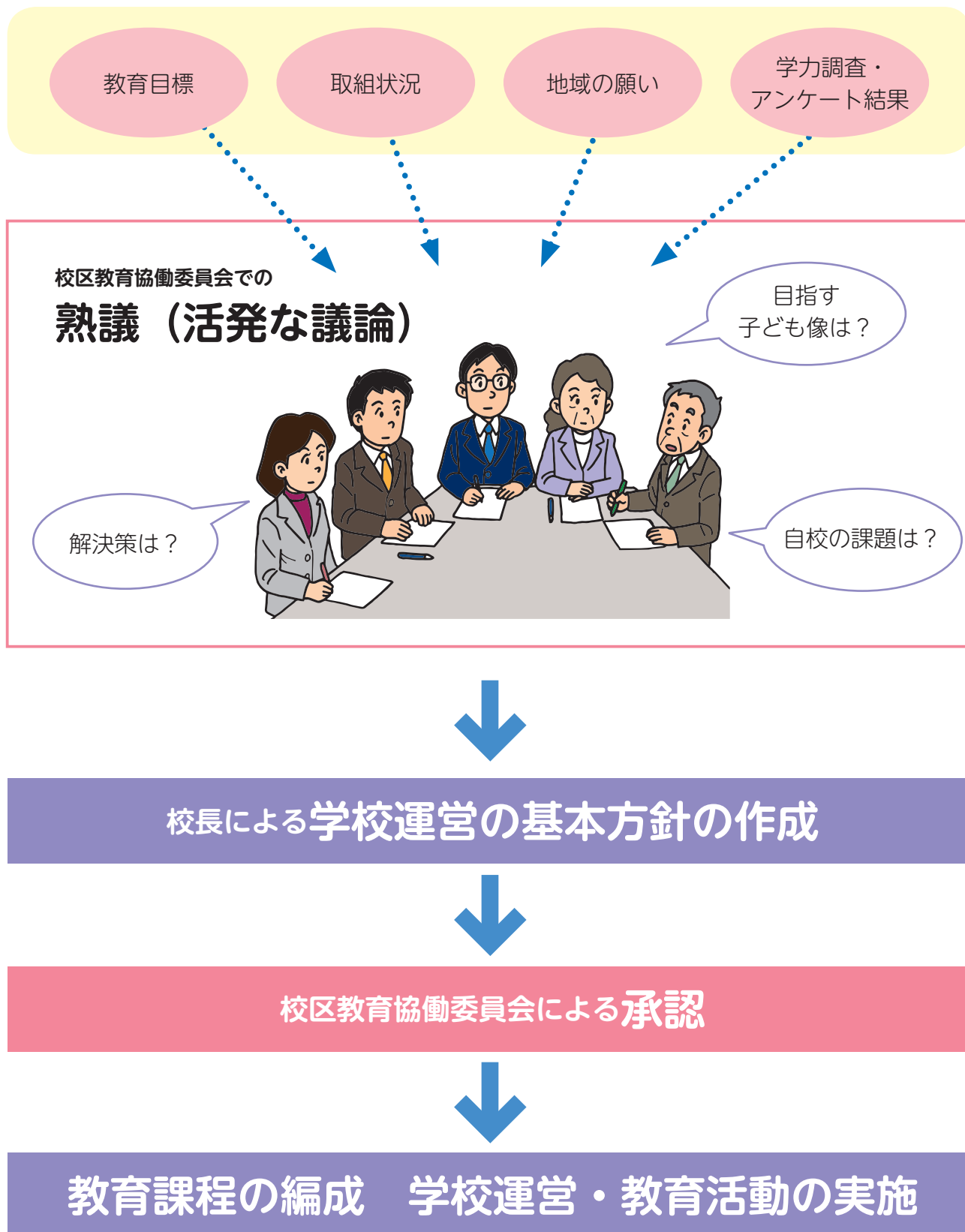
その中核となる学校は、校長のリーダーシップのもと、目指すべきビジョンの達成に向かって学校内の組織運営を管理することにとどまらず、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていく力が必要です。

校区教育協働委員会の流れ

		①学校運営の 基本方針の承認	②教育活動の 評価	③区費教職員等の 活用に関する意見	④学校支援活動 の企画・調整
4月	第1回校区教育協働委員会 学校：学校経営方針発表 学校年間計画発表		○評価指標の確認		○学校支援活動 計画についての 協議
5月					
6月	第2回校区教育協働委員会				○学校支援活動の 企画・調整
7月	学校：データに基づく前年度の 教育活動の自己評価				
8月	第3回校区教育協働委員会 学校：前年度の教育活動の まとめ(成果指標)		○課題とその改善 策についての協議	○区費教職員等の 活用についての 意見	○学校支援活動の 企画・調整
9月	学校：次年度の学校運営の 基本方針の作成		○前年度の学校評 価まとめ		
10月	第4回校区教育協働委員会	○次年度の学校運 営の基本方針に ついての協議	○学校公開の参観		○学校支援活動の 企画・調整
11月					
12月	第5回校区教育協働委員会	○次年度の学校運 営の基本方針に ついての承認		○次年度の区費教 職員等の活用に ついての意見	○学校支援活動の 企画・調整
1月	学校：次年度教育課程の編成				
2月	第6回校区教育協働委員会 学校：自己評価の実施 (取組指標) 次年度の評価指標の 作成	○次年度の教育課 程について協議	○学校の自己評価 の妥当性につい ての協議 ○次年度の評価指 標の協議		○本年度の学校支 援活動の反省 ○次年度の学校支 援活動について の協議
3月	学校：次年度の教育課程提出				

校区教育協働委員会の役割

1 学校運営の基本方針の承認の流れ



校区教育協働委員会の役割

2 教育活動の評価の概要

評価事項

学力に
関すること

社会性・
人間性の育成に
関すること

体力・健康に
関すること

いじめ防止の
取組に
関すること

特色ある
教育活動に
関すること

校区教育協働委員会による学校評価の特徴

学校評価を行う際の評価指標は「成果指標」と「取組指標」を設定します。そのことで、取組状況と取組によって表れた成果について把握できるようにします。

校区教育協働委員会による学校評価は、教職員の自己評価の妥当性について協議を行うだけでなく、学校評価により浮き彫りになった学校の課題を校区教育協働委員会で共有し、共に改善策を考えます。

本年度の取組の成果は年度末に行う児童・生徒アンケートや次年度始めに行う区学力定着度調査の結果に表れるため、本年度の学校評価の最終まとめは次年度の夏に行います。

学校評価のスケジュール

	前年度分	本年度分	次年度分
4月		評価指標の確認	
7・8月	学力調査・アンケート等のデータを基にした分析		
8・9月	学校評価の結果公表	前年度の課題から本年度の教育活動の見直し	
2・3月		自己評価の実施	評価指標の作成

校区教育協働委員会の役割

3 区費教職員等の活用に関する意見の例

区学力定着度調査の結果から、理科の習熟に課題があることが分かりました。

実験や観察を多く取り入れた授業で子どもの興味を高めたらどうでしょう。

中学・高校の理科の教員免許を持つ方を、区費講師として活用することで、授業内容が充実するのではないのでしょうか。



4 学校支援活動の企画・調整の例

登下校時に子どもたちの挨拶運動に地域の方も加わったらどうでしょうか。

学校支援地域本部でボランティアを募り、登下校時に挨拶運動を実施しましょう。

子どもたちが地域でもっと挨拶ができるようになってほしいです。

保護者にも是非考えてほしい内容です。校区教育協働委員会からも働きかけましょう。



学校支援地域本部の概要

● 学校の教育活動を支援します

学校支援地域本部は「学校地域コーディネーター」「学校支援ボランティア」「学校関係者」で構成され、学校の教育活動を地域全体で支援するとともに地域の教育力の活性化を図ります。

地域の様々な経歴をもった人たちが協力することによって、学校の教職員だけではできないことができたり、教職員が子どもたちの指導に関わる時間を増やしたりすることができるようになります。

● 学校支援地域本部による学校支援の仕組み

学校支援 ボランティア



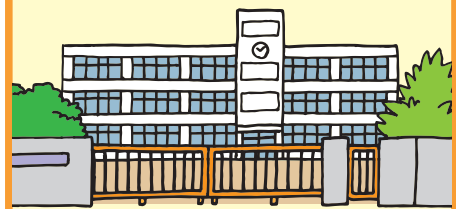
学校環境整備、学習支援、読み聞かせ、登下校時の安全パトロールなどの活動を行います。

学校地域 コーディネーター



連絡・調整

学校

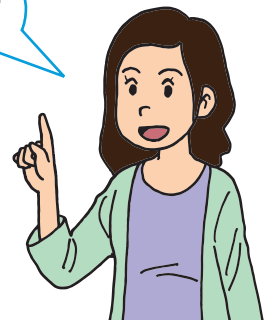
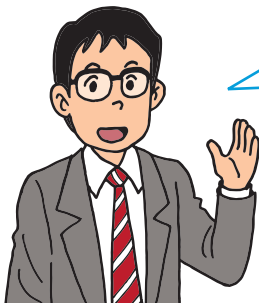


どのような人材が、どのような教育活動で必要なのか、協議し、支援活動の要請をします。

学校支援地域本部の活動とPTA活動はどう違うのですか？

学習の個別支援等、PTA活動とは異なる活動分野があります。学校行事の支援など、これまでのPTA活動と共通する部分は、協力分担して行います。

また、学校支援地域本部の活動には、保護者のみなさまを含めた地域のいろいろな方々に参加していただいています。



学校支援地域本部による学校支援活動の流れ

● 学校地域コーディネーターとは

学校地域コーディネーターは、児童・生徒（地域の子ども）のために、学校で行われる教育活動の充実に向けて、学校支援のコーディネートを行います。

そのために、学校が必要とする支援について把握し、それに応じて、組織化した学校支援ボランティアの中から、適切な学校支援ボランティアを派遣します。また、企業・NPO・大学等からの学校支援のコーディネートも行います。

さらに、地域の行事や地域での教育活動などについて、地域の要望を学校に伝えるなどの調整をします。



学校地域コーディネーターは、学校と地域（学校支援ボランティア等）をつなぐパイプ役です。

また、校区教育協働委員会と学校支援地域本部をつなぐ役目も担っています。

● 学校支援活動のコーディネートの流れ

① 学校支援ボランティア名簿の作成

- 学校支援ボランティアの募集
- ボランティア応募票に基づいた名簿の作成

② 学校からの要望の把握

- どのような活動を行うのか、どのような支援が必要か確認する。
- 学校支援ボランティアは何人必要か確認する。

③ 学校支援ボランティアへの活動依頼

- ボランティア活動参加者の確認
- 事前打ち合わせ（ボランティア・学校）の実施

④ 当日の学校支援活動

- ボランティア参加者の確認
- 活動の振り返りと学校地域コーディネーターからの助言

学校支援地域本部の学校支援ボランティア

● 学校支援ボランティアとは

学校支援ボランティアは、児童・生徒（地域の子ども）のために、学校の教育活動の充実に向けて、地域にある学校の学習支援や環境整備など、様々な学校支援活動を行います。

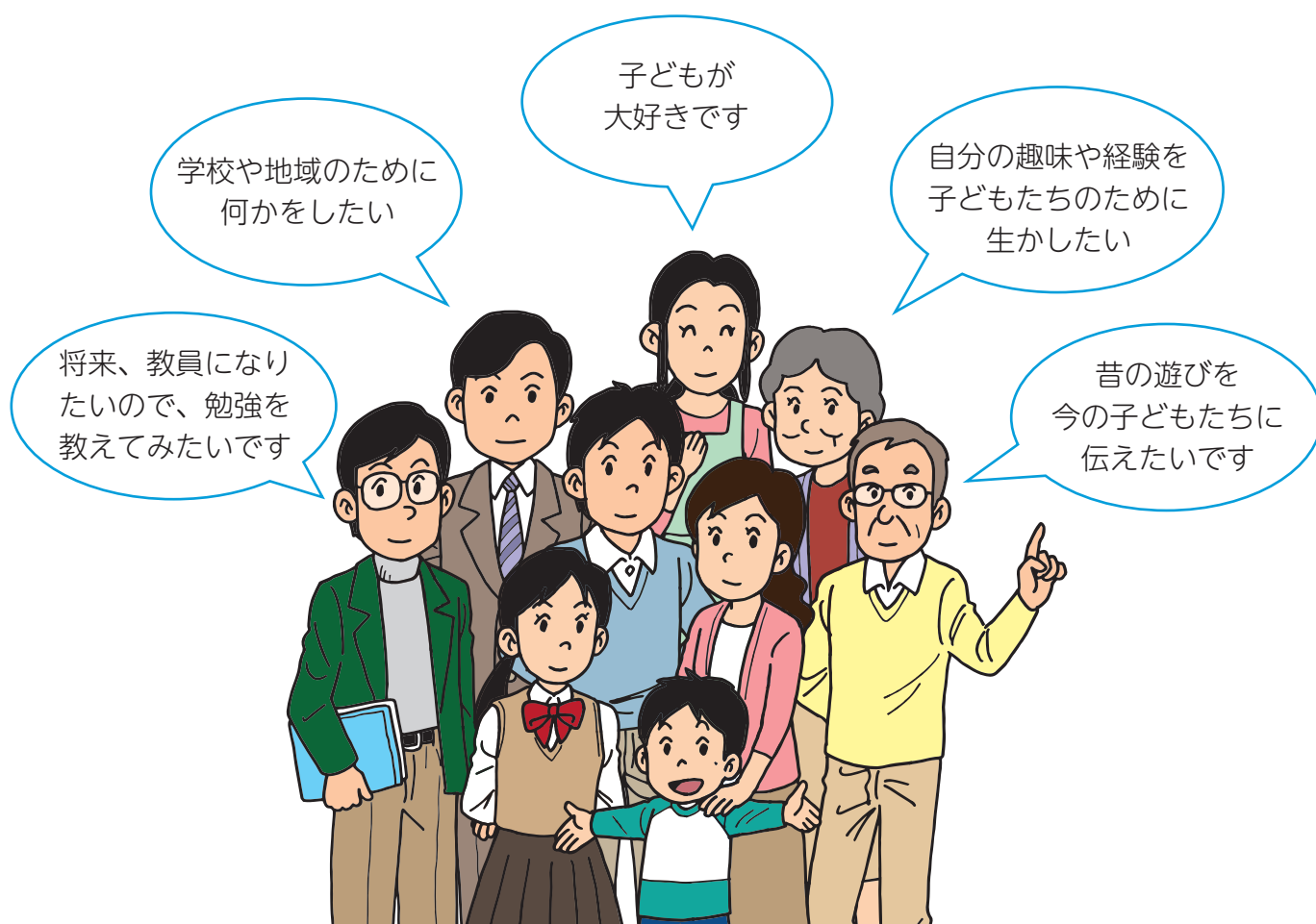
学校支援ボランティアの登録時には、「協力できる活動内容」や「活動できる曜日や時間帯」を伝えます。登録後、学校地域コーディネーターから、学校が必要とする支援について、参加依頼をさせていただきます。

学校支援ボランティアは、**できる人が、できるときに、できること**を自らの意思で主体的に行うことが基本です。

● 学校支援ボランティアになるには

地域の子どもたちが健やかに育ってほしい、子どもを温かく見守りたいという気持ち、また、地域の学校の教育活動に協力したいという気持ちがあれば、学校支援ボランティアになれます。

ボランティア活動には特別な資格や技能などをもっている必要はありません。自分の趣味やこれまでの経験を生かしていただくことができます。



学校支援地域本部の学校支援活動例

専門的知識・技術が必要

学習や教育活動に関する支援

- 学習指導（教科等）
- 品川地域未来塾【詳細は次頁】
- 通訳ボランティア
- ミシン学習補助
- 伝統文化学習（体験を含む）
- 安全マップづくり
- 職場体験



環境整備に関する支援

- 施設の補修・塗装
- 植木の剪定
- 花の栽培
- ビオトープづくり
- パソコン維持・管理
- ホームページの作成
- 広報制作・更新
- 備品等の修理



どなたでも参加できる活動

- 授業の指導補助
- 補習教室の丸つけ
- 各種検定試験等の運営補助
- 教材・教具作成の協力
- 読み聞かせ
- 学校行事の補助
- 校外学習の引率補助
- リサイクル活動



- 登下校の見守り
- 学校内外のパトロール
- 花壇・菜園の整備
- 生物の飼育（餌やり・清掃）
- 図書室運営・整備
- 掲示の手伝い
- 校内清掃・美化活動
- 落ち葉掃き



その他、地域や学校の特色に合ったボランティア活動があります。

品川地域未来塾の概要

品川地域未来塾とは

東京都教育委員会が展開する事業を活用し、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身に付いていない児童・生徒の基礎学力や学習意欲等を向上させるため、地域と学校の連携・協働による学習支援を行う取組を実施しています。

目標

地域人材等の活用による学習支援の実施

学習支援を通じた地域と学校の連携の強化



概要

◆ 地域未来塾指導員

卒業生や教員 OB などの地域住民、教員を志望する大学生など

◆ 実施教科

国語、算数／数学、社会、理科、英語

(ICT 機器を活用し、電子化された「東京ベーシック・ドリル」を使用した学習を行っている学校もあります。)

◆ 実施時期

平日の放課後や土曜日に定期的に実施するほか、夏休み・冬休みに集中的に行うなど、授業時間外に設定

実施している教科や実施時間・時期などは、各学校で異なりますので、詳細は学校にお問い合わせください。

地域未来塾に対する二つの組織の関わり

◆ 校区教育協働委員会

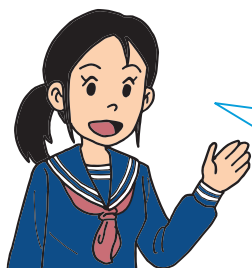
地域の子どもたちにどのような学習支援が必要か熟議し、地域未来塾指導員となる地域人材等の発掘方法などについて協議

◆ 学校支援地域本部

学校地域コーディネーターを中心に、学校・校区教育協働委員会からの要望により事業実施を支援（地域未来塾指導員の確保、学習プログラムの企画・調整等）

品川地域未来塾を実施する学校の声

児童・生徒



授業でわからなかった内容を復習できるので、
わからないまま進むことが減りました。

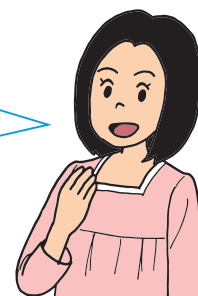


なんでも気軽に質問できるので、疑問点がその場で解決できます。
そのため、家での学習もとてもはかどるようになりました。

指導員



将来教員になることを目指しているので、
自分が卒業した学校の子どもたちに勉強を教える経験は、
プラスになっていると思います。



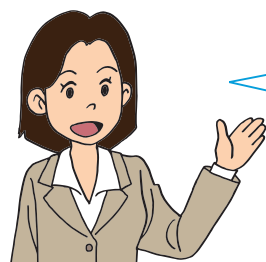
これまで教員免許状を生かす機会がなかったのですが、
学校から声をかけてもらい、地元で教えることができ、
地域に貢献できることがとてもうれしいです。

学校地域コーディネーター

地域未来塾指導員の確保、連絡・調整など大変なこともありますが、
子どもたちが集中して勉強している姿を見ると、
より一層内容を充実させたいと思います。



教職員



特に学習が苦手な児童・生徒の基礎・基本の定着に
つながっていると思います。

校長としては、この取組が地域の方が学校に愛着をも
つための1つのツールになっていると感じます。校区
教育協働委員会で提案された内容について、学校地域
コーディネーターが中心となって調整を進めてくれる
ので、学校としても非常に助かっています。



品川コミュニティ・スクール事業開始年度一覧

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
15 校指定	16 校指定	15 校指定
日野学園	城南小学校	三木小学校
伊藤学園	浅間台小学校	芳水小学校
八潮学園	御殿山小学校	第四日野小学校
荏原平塚学園	城南第二小学校	大井第一小学校
品川学園	第一日野小学校	立会小学校
豊葉の杜学園	第三日野小学校	京陽小学校
鮫浜小学校	山中小学校	延山小学校
浜川小学校	台場小学校	宮前小学校
伊藤小学校	中延小学校	後地小学校
鈴ヶ森小学校	小山小学校	戸越小学校
大原小学校	源氏前小学校	小山台小学校
上神明小学校	第二延山小学校	東海中学校
浜川中学校	旗台小学校	大崎中学校
鈴ヶ森中学校	清水台小学校	荏原第一中学校
富士見台中学校	荏原第五中学校	戸越台中学校
	荏原第六中学校	